

スパークス・日本株・ロング・ショート・ファンド
愛称:ベスト・アルファ

マンスリーレポート
基準日 2020年6月30日

【運用実績】

過去のパフォーマンス(%)	直近の分配実績(円)	
	ファンド	TOPIX配当込
過去1ヵ月間	2.54	-0.19
過去3ヵ月間	8.84	11.25
過去6ヵ月間	-2.54	-8.17
過去1年間	3.03	3.10
過去3年間	16.58	3.76
設定来	147.53	96.56
		設定来累計
		1,300

※ 決算期に収益分配があった場合のファンドのパフォーマンスは、分配金(税金控除前)を再投資することにより算出される収益率です。従って実際の投資家利回りとは異なります。

【ロング・ショート別構成】

	比率(%)	銘柄数
ロング	61.1	33
ショート	-29.6	47
ネット	31.5	—
グロス	90.7	—

※ 比率は対純資産総額
※ ネットはロングとショートの差引、グロスはロングとショートの合計です。

【市場別構成(ロング)】

市場	比率(%)
東証1部	41.5
東証2部	0.0
東証マザーズ	15.8
ジャスダック	3.8
その他	0.0

※ 比率は対純資産総額

【業種別構成(ロング)】

業種	比率(%)
情報・通信業	16.1
機械	8.1
医薬品	7.7
電気機器	6.7
サービス業	6.6
その他	15.9

※ 比率は対純資産総額

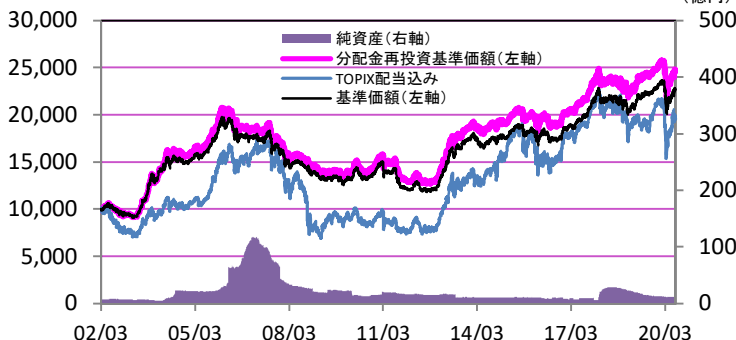
【基準価額・純資産総額の推移】

基準価額	解約価額	純資産総額
22,714 円	22,646 円	11.25 億円

ハイ・ウォーター・マーク: 22,303 円

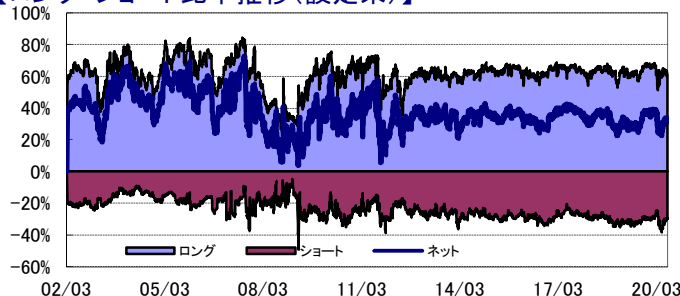
※ 基準価額がハイ・ウォーター・マークを超えると実績報酬が発生します。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。
※ 当該ハイ・ウォーター・マークは、当ファンドの毎計算期間末(毎年3月10日、休日の場合は翌営業日)および毎計算期間の最初の6か月終了日に更新される場合があります。詳しくは委託会社にお問い合わせください。

※2002/3/8(設定日前営業日)を10,000として指数化



※ 基準価額は信託報酬・実績報酬等控除後です。
※ 分配金再投資基準価額は、当該ファンドの信託報酬控除後の価額を用い、分配金を非課税で再投資したものと計算しております。
※ 当ファンドはTOPIX(配当込み)をベンチマークとするものではありません。

【ロング・ショート比率推移(設定来)】



※ 比率は対純資産総額、ネットはロングとショートの差引

【組入有望証券上位10銘柄(ロング)】

順位	銘柄	業種	比率(%)
1	ペプチドリーム	医薬品	3.5
2	村田製作所	電気機器	3.5
3	JMDC	情報・通信業	3.3
4	塩野義製薬	医薬品	3.2
5	リックソフト	情報・通信業	3.1
6	ギフト	小売業	3.1
7	日揮ホールディングス	建設業	3.1
8	SUMCO	金属製品	3.0
9	SMC	機械	2.9
10	AI inside	情報・通信業	2.8

※ 比率は対純資産総額

※ 上記記載のうち、【運用実績】、【基準価額・純資産総額の推移】以外は当ファンドが投資するマザーファンドに関する情報です。

※ 「比率(%)」は、当ファンドが投資するマザーファンドの純資産総額に対する比率です。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損失は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。

スパークス・日本株・ロング・ショート・ファンド
愛称:ベスト・アルファマンスリーレポート
基準日 2020年6月30日

ファンド・マネージャーのコメント

【市況状況】

2020年6月、日本株式市場の代表指数であるTOPIX（配当込み）は前月末比0.19%の下落となりました。

当月の日本株式市場は、世界的な経済活動再開や米国雇用統計（2020年5月）の改善を受けて上昇してはまりましたが、月半ばにかけては米国で新型コロナウイルスの新規感染者数が再び増加したことを嫌気し、下落基調に転じました。月後半は、感染第二波への懸念は続いたものの、米国住宅関連指標の改善や中国経済指標の改善が相場を下支えし、前月末比ほぼ横ばいで終わりました。

【運用状況】

6月の当ファンドは、AI inside、東京エレクトロンなどが上昇し、パフォーマンスに対してプラスに貢献しました。

AI insideは、同社が提供するAI（人工知能）を活用した手書き伝票のデジタルデータ化サービスが現状の社会環境で更に需要が高まっていることを評価し株価が上昇しました。東京エレクトロンは、発表された2021年3月期の業績予想を通して半導体製造装置に対する強い需要動向が確認されたことで株価が上昇し、上場来高値を更新しました。

一方、JMDC、オロなどが下落し、パフォーマンスに対してマイナスに影響しました。

JMDCは、親会社のノーリツ鋼機(株)が一部保有株を売却したことで、短期的な需給悪化が懸念され株価が下落しました。オロは、5月に2020年12月期第1四半期決算を発表して以降、成長性に対する懸念から株価が軟調に推移していますが、当ファンドでは「新型コロナウイルス感染拡大による一時的な事業推進のずれ」と捉えており、株価の下落局面は投資ウェイトを引き上げる好機と考えています。

先行き不透明な経済環境にも関わらず将来の成長期待から株価が大きく上昇した銘柄を売却し、ロング・ポジションの利益を確定したことを主因にネット・ポジション、グロス・ポジションとも前月に比べ引き下げ、ネット・ポジションの水準は当ファンドが考える中心的な水準としています。

【運用方針】

日本株式市場は、新型コロナウイルス感染拡大の長期化懸念と世界的な財政・金融面でのサポートに対する期待感が均衡した状態と考えています。

実体経済へのマイナス影響は、短期的なものだけではなく中期的に影響を及ぼす要因もあるだけに、安易な楽観は慎み個別の企業をしっかりと評価して、ロング、ショートそれぞれの投資機会を捉えていく方針です。

当月は、ショート投資先企業である「自動車部品メーカーA社」をご紹介します。

A社は、特定の製品で世界シェア2位の自動車部品メーカーです。当ファンドでは、業績悪化の度に構造改革でリストラを繰り返していたA社の経営を長年注視してきました。度重なるリストラ策は、短期的に固定費は下げられても長期的な企業体力を蝕むためです。昨年度に発表された新たな構造改革案は、一段の事業売却と自動車部品への経営資源の集中でした。当ファンドがA社への取材を通じて確認したことは、①現在注力する自動車部品の収益改善計画が過去にA社が実現に至らなかった難易度の高い内容であったこと、②自動車業界の生産台数増加が止まる経営環境下でさらなる競争激化が想定されたことです。一方で、A社の株価は、新たな構造改革を評価されたことや、一部の証券会社が買い推奨を始めたことなどから割高になっていると判断し、当ファンドでは2019年後半からショート投資を行ってきました。

A社は6月末に私的整理の一種である事業再生ADR（特定認証紛争解決手続）を申請し、今後銀行など債権者の負担を強いることを含めて再建に向けた合意形成を目指すものと思われます。株主価値の毀損を通じて株主にも相応の負担が求められることになると、当ファンドは考えています。

ロング投資では、6月に東京証券取引所マザーズに上場して新規に組み入れた「ロコガイド」についてご紹介します。

同社は国内最大級のチラシ・買い物情報サービス「トクバイ」を中心とした地域情報ポータルサイトの運営会社です。社長の穂田（あきた）氏は(株)カクコム、クックパッド(株)の社長を歴任した「カリスマ経営者」です。

「トクバイ事業」はもともとクックパッド(株)の社内事業として同氏が立ち上げたものの、クックパッド(株)の経営方針の変更から分社化され、2016年12月にMBO（Management Buyout、経営陣による企業買収）により、クックパッド(株)から完全独立しました。

「トクバイ事業」では折り込みチラシの情報をベースに、リアル店舗の価格情報などの買い物情報をスマートフォンなどの電子デバイスで閲覧できるサービスで、利用者の利便性を高め店舗の集客効率化を支援しています。同業他社と比較して、掲載料を低く抑えながらも利用者にとって使いやすいサービスを提供し、「トクバイ」の利用者数は大きく成長しています。現在の「トクバイ」掲載店舗数は全国の小売店舗数の約2%であり今後の成長余地が大きく、提供サービスを増やすことで掲載料の引上げが可能と思われることを考慮すると、中期的な高い利益成長率が見込めると考え、ロング投資を行っています。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡しますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等については当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書（交付目論見書）のご請求、お問合せは販売会社まで。